

## 第6節 ソーシャル・デザイン・インスティテュート

### 第1項 ソーシャル・デザイン・インスティテュートの設置

#### (1) 事業概要

2024（令和6）年4月1日、ソーシャル・デザイン・インスティテュート（Social Design Institute、略称SDI）が発足した。本研究機関は国際共同研究センターとして、タイ王国のKing Mongkut's University of Technology Thonburi（KMUTT）と共同でバンコクに設置した日本・タイ初の共同研究機関で、ソーシャル・デザインの研究としては唯一無二の機関である。

SDIはグランド・デザインを提案することで、新しいソリューションを実現する研究機関であり、同時に、千葉大学バンコクキャンパスとしても位置付けられる。

図2-18-6-1 SDIが設置されるKMUTT（下段）と日本側の中心となるdri（上段）



#### (2) 設置の社会背景

世界には、さまざまな社会課題が遍在している。これらの課題は、多様な課題の混合体であり、数多くの専門家や知識を必要としている。そのため、さまざまな専門家が一丸となって解決する研究機関を設置し、包括的な研究を行うことが求められていた。

図2-18-6-2 設置の概要

**Outline**

**Social Design Institute  
International Collaboration Research Centre  
KMUTT and CU**

**Research Institute for Social Design from Japan and Thailand**

Establishment of Japan-Thailand's first joint research institute  
New research institute established in Bangkok based on previous research findings. Practical research focusing on Economy, Agriculture, Tourism and Industry

日本-タイ共同研究センターの共同研究機関の設置。これまでの研究成果を基に、新たな研究機関をバンコクに設置。経済、農業、観光、産業を中心に実践型研究を推進

- 1

**Practical Based Joint Research in Japan-Thailand**

Universities working with local authorities and companies  
Practical issues are solved through collaboration in Japan, Tai. Research centres that contribute to society

実践型共同研究を日本-タイで実施。自治体・企業と連携する大学、実践的な課題を日本-タイの連携で解決。社会に貢献する研究センター
- 2

**Becoming a research organisation that solves global challenges**

Research that takes on the world  
Daring to take on and solve a variety of social issues that are ubiquitous around the world, not just those in Japan and Thailand

世界の課題を解決する研究機関へ。世界に広がる研究。日本-タイの研究だけでなく世界に存在するさまざまな社会課題に貢献に挑み解決
- 3

**Japan-Thailand Joint PhD Programme**

Establish and Operate advanced Educational Programmes  
Further develop the functions of the Bangkok campus and expand the locally-supported doctoral programme.

日本-タイ共同で博士課程を推進。高度な教育プログラムを設け、バンコクキャンパスの機能さらに進化させ両国共同で博士課程をさらに拡張。同レベル以上の博士を輩出



## 第2項 研究活動

研究活動は大きく3つのリサーチ・ユニットに分類して実施する。

### 〈ユニット1〉地球経済学の設置

経済が及ぼす地域社会の課題（KMUTT主導）

本研究ユニットは、国境を越えた経済活動の実証分析を中心に、経済と開発・環境の関係性を明らかにすることで未来の社会に資する自走型のシステムを提案する。例えば、都市と農村を二分する経済問題の把握とそのソリューションを提供することで、タイの農村部が抱えている課題を解決することができ、それらの一部は日本だけではなく、世界の農村部の課題に貢献することが可能な雛形になり得る。このように地球経済学として世界に遍在するさまざまな社会課題に対応できる研究をKMUTT主導で実施していく。

### 〈ユニット2〉未来園芸の推進

園芸の産業化による未来園芸の実現（千葉大学主導）

未来園芸の推進とは、AIによる園芸の改革とテクノロジーの進化への対応である。千葉大学がタイで最も強みを持つ研究活動は園芸である。これまで、植物工場を中心として、施設園芸に最先端技術を利用し、効率的な園芸を実施してきた。多くの企業と連携し、技術の実用化がなされており、これをタイで実践することで、熱帯園芸など従来とは異なる課題を発見、解決することができる。さらに未来園芸により、園芸の産業化を推進することで、園芸サービスのDGX (Digital-Green Transformation) を目指し、柏の葉キャンパスで実施する宇宙園芸の技術を転用した未来農業の実現を図る。

〈ユニット3〉社会インパクトを創出

社会インパクトのある産官学連携プログラムの実施

ユニット3は、全く新しく多岐にわたる専門性を統合し、社会にインパクトを与えるイノベーションを創出する。デザイン・シンキングで社会に貢献し、創造型研究プログラムの開発と実施を行う。また、driとリンクし、グローバルでありローカルでもある課題を扱う。さらに大学が社会に貢献すべきUniversity Social Responsibility (USR) を実践し、これを目的とした研究機関として位置付ける。ローカル経済の活性化、歴史的資産を活用した産業提案、未来のツーリズムサービス、環境対応型エコ・ハウスなど課題解決を実践する。

図2-18-6-3 リサーチ・ユニット

**Research Activities**

**Unit 1 EARTH ECONOMICS (GEOECONOMICS)**  
 Challenges for local communities economy  
 Examining the reality of cross-border services - empirical analysis of trade in services  
 Understanding and providing solutions to economic problems that divide urban and rural areas  
ユニット1 東洋経済学の国際 研究が及び地域社会の課題  
 国境を越えたサービスの現実の検証-サービス・トレードの地域分析  
 都市と農村を分断する経済的課題の克服と都市・農村間の連携

**Unit 2 FUTURE HORTICULTURE**  
 Industrialisation of horticulture to realise future horticulture  
 AI horticulture and technology evolution, realisation of GDx for horticultural services  
 Realisation of future agriculture by converting space horticulture technology  
ユニット2 未来農業の推進 農産物の生産による未来農業の発展  
 AI農業とテクノロジーの進化 農産物サービス実現のためのGDx(Green-Digital Transformation)の実現  
 空間転換による未来農業の社会実装

**Unit 3 CREATING SOCIAL IMPACT**  
 Implement industry-government-academia collaborative programmes  
 Create innovations with social impact by integrating diverse expertise  
 Contribute to society through design thinking. Develop and implement creative research programmes  
ユニット3 社会インパクトを創出 社会インパクトのある産官学連携プログラムの実施  
 多岐にわたる専門性を統合し、社会インパクトのあるイノベーションを創出する  
 デザインシンキングを通じて、社会実装可能な革新的な提案

第3項 組織と運営

KMUTTと千葉大学が共同で設置したSDIにおいて、千葉大学側の初代インスティテュート長に、石戸光副理事（国際学術研究院教授）が選出された。各リサーチ・ユニットをスムーズに運営するため3つの活動を支援している。

①実践型共同研究を日本一タイで実施

自治体・企業と連携して実践的な課題を日本一タイの協働で解決する、社会に貢献する研究センターとして実施。

②世界の課題を解決する研究機関へ

世界課題に挑む研究を実施する。日本とタイだけでなく世界に遍在するさまざまな社会課題に果敢に挑み解決を目指す。

- ③日本一タイ共同で博士人材を育成 高度な教育プログラムを設置し運営  
 バンコクキャンパスの機能を進化させ現地完結型博士課程を拡張する。グローバル  
 に活躍しうる博士号取得学生を多数輩出することを目標とする。

図2-18-6-4 設置までの歩み

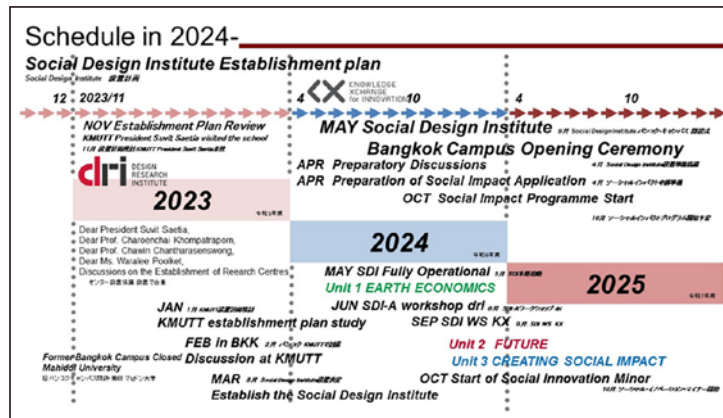


写真2-18-6-1  
 開所式における千葉大学の小澤理事と  
 KMUTTの学長



写真2-18-6-2 SDI開所式のリボンカッティング・セレモニー

SDIの開所当初から、千葉大学とKMUTTはすでに連携を開始している。

- 1) SDIにおける学部レベルの「インターンシップ」により、社会経済の発展をデザインする取り組み
- 2) 大学の世界展開力強化事業（ASEAN 諸国からの留学生を焦点においた大学院レベルの英語による動画教材作成）の実施連携

これらの活動をさらに発展させることで、SDIの国際的な研究活動が、学部・大学院レベルの双方で課題発見・解決型の教育に資する効果も大いに期待される。